図書館だより

柏崎常盤高等学校図書館　令和５年１０月号

令和５年１０月５日発行

新任の先生方のおすすめ本の紹介

★阿部 佳峻先生のおすすめ本

『バイオメカニクス～機械工学と生物・医学の融合』　　立石 哲也/著　　オーム社

バイオメカニクスとは、生体の外部または内部に作用する力とその力によって生じた様々な現象を解析する分野である。生体組織の１つの骨における破壊である骨折には、多様な骨折状態が存在するが、受傷時にどのような力が作用し、どのように骨折線が進展するかを解明することで、的確な治療に役立ち、早期治癒につながると考えられる。

現在、わたしは、太ももの骨である大腿骨における骨折や足部の骨の１つである踵骨における骨折に対する骨折メカニズムの解明に向けた研究を行っているが、これにはバイオメカニクスの知識が必要不可欠である。また、バイオメカニクスは医療機器の開発等に役立てられている。

これらのことから、骨折メカニズムの解明や医療機器の開発等を行うためには、生物および医学の他に力学の知識を習得する必要があることがわかる。もし、生体に力学を適用するバイオメカニクスに興味を持った場合は、この本を読んでみると良いと考える。

★髙柳 育美先生のおすすめ本

『目の見えない人は世界をどう見ているのか』
伊藤 亜紗/著　　光文社新書

アイマスクなどで視覚を遮断し、歩き回ってみたことはありますか。視覚に障がいがある人は、生活が難しそうだ、大変だ、と思うかもしれません。しかし、目の見えない人にとって世界は、五感から視覚を「引き算」したものではなく、もともと他の感覚だけで成立しているものだというのです。（本書では、４本の脚がある椅子から１本とれば椅子は倒れてしまうが、もともと３本でデザインされている椅子は立てる、と説明されています。）

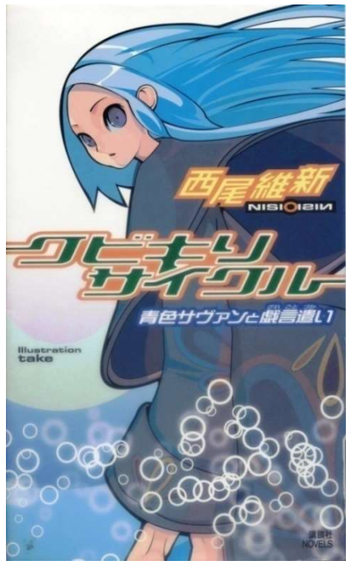
この本では、目が見えない人の感覚の使い方、足腰の能力、言葉の定義（目が見える人とは違うらしい！）の具体例がいくつか挙げられ、視覚のない世界がどうなっているのか少し見えてきます。歩いているだけで地形を俯瞰的に捉えたり、聞こえる音だけで時刻がわかったりと、筆者（聞き手）はそういった能力の違いを「すごい」ではなく、「面白い」ととらえています。

読めば、新しい視点が得られるかもしれません。

２学年図書委員のおすすめ本です

★２年１組　図書委員のおすすめ本

『クビキリサイクル　青色サヴァンと戯言遣い』
西尾 維新/著　　講談社



主人公である「ぼく」が周りで起きる殺人事件を解決へ導いていく推理小説「戯言シリーズ」の第一作。アリバイと共犯、入れ替わりに次ぐ入れ替わり、何が本当で何が嘘か。緻密に張り巡らされた伏線や、解決の糸口であるところの違和感の提示によって、語り部と自分が犯人に踊らされるという結果を招き、読み進んでいくほど物語に入り込んでしまうような作品です。

読めば読むほど自分の中で新しい推理が生まれる作品なので、ぜひ一度読んでみてください。

★２年１組　図書委員のおすすめ本

『medium 霊媒探偵 城塚翡翠』
相沢 沙呼/著　　講談社

この本は霊媒の能力があるという主人公の城塚翡翠と推理作家の香月史郎が手を取り合い、殺人事件を解決していく物語です。事件の被害者の霊を自分の体に呼び、当時の状況をヒントに事件を解決に導いていきます。３つの短編と全体を通して１つの大きな事件で物語が構成されています。去年の10 月にはドラマ化され話題になりました。

私はこの本を何度も読み返しました。伏線がたくさん敷き詰められていて、１回では読み切れないからです。しかし、読めば読むほど城塚翡翠という人物が、そしてこの物語の正解が分からなくなります。もしこの本を読むなら、最初は何も疑わず素直に読んでください。そして盛大に騙されて欲しいと思います。帯に書かれている通り、この物語は「すべてが、伏線。」です。

★２年２組　図書委員のおすすめ本

『人間失格』　　太宰 治/著　　集英社文庫

「人間失格」という作品は、主人公である大庭葉蔵が破滅に向かって堕ちていく物語である。その物語の途中で様々な人と出会い、接していく中で、主人公・葉蔵の心の変化が細かく表現されている。普通の人間が送ることがないような壮絶な人生を主人公が送っている中で、自分でも共感してしまうような部分があり、人間の営みを理解できず、周りの人とどう接すればいいかわからず、「道化」を演じる主人公の心情を考えながら読んでいくのがとても面白い。

物語の中で一度は幸せな生活を手に入れるも、それが続かず、再び堕落した日々を過ごす主人公の姿は、「普通の人間」ではなくなっており、その生々しさが逆に魅力になっていると思う。

この作品は、作者である太宰治の人生や考えが反映されたストーリー展開をされていて、主人公と太宰本人を重ねて読むのもとても面白いと思う。

２学年図書委員のおすすめ本です

★２年２組　図書委員のおすすめ本

『はだしのゲン』　　中沢 啓治/著　　汐文社

私が紹介する本は「はだしのゲン」です。この本は原爆についてのことをテーマとした本として今年の夏にニュースなどで取り上げられていました。

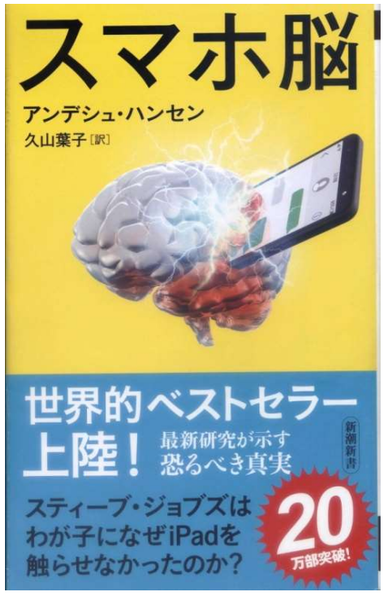
話の舞台は太平洋戦争末期の広島から始まります。主人公ゲンの家族、中岡家は貧しかったが五人の子ども達は元気に育っていました。しかし、父親が戦争に批判的な言葉をもらしたことから、中岡家は非国民として疎外されてしまいました。そして８月６日の原爆を受け、生きていたのは、ゲン、母、そして生まれたばかりの赤ん坊でした。その３人は共に逃げのび、様々な苦労を経験します。

この本のポイントは被爆者の生活の実状を通して、戦争のむごさをえぐり出したところです。

２学年は修学旅行で広島に行き、原爆ドームなどを通して戦争のことを学ぶ時間がありますが、この本を先に見てより深く考えられるようにするのも良いのではないかと思うので、今回私はこの本を紹介しました。

★２年３組　図書委員のおすすめ本

『スマホ脳』
アンデシュ・ハンセン/著　　久山 葉子/訳　　新潮新書



若者の二割は一日七時間も使うといわれているスマホ。便利な反面、その便利さに溺れているうちに脳が蝕まれていくということは確実だ。この本では今までの人間の進化と脳科学も踏まえながら、どうして人間がスマホにハマってしまうのか、そしてそれがいかに危ういか、心と体にどのような影響を与えるのかなどが書かれている。

教育大国スウェーデンを震撼させ、社会現象となった世界的ベストセラーの本だ。スマホを多用するであろう高校生にぴったりの本である。

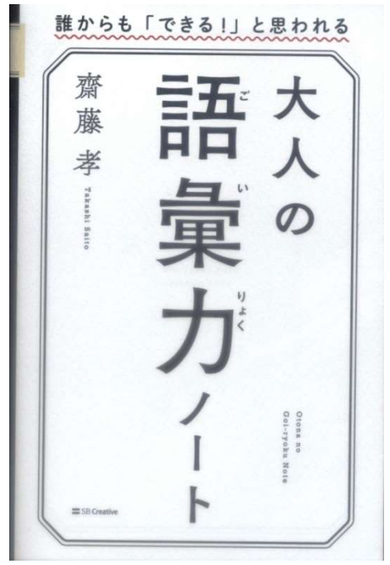
秋の読書月間始まります！

期　　間：10 月 27 日（金）～11 月 22 日（水）

貸出期間：3週間！

★２年３組　図書委員のおすすめ本

『大人の語彙力ノート』　　齋藤 孝/著　　ＳＢクリエイティブ



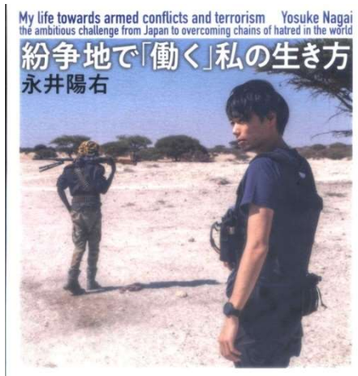
ここ最近は大人の言葉遣い遣いが問題になっている。子どもっぽい話し方、社会人らしく見えないなどと言われて損をしてしまう。そんな中で正しい“大人の言葉遣い”というものが大切になってくる。

本書では少し言葉を言い換えるだけで品を良く見せることができるものが紹介されている。例えば、「やばい」を言い換えて「大変だ」や「大丈夫です」を言い換えて「問題ございません」などがある。

この本を読むことで語彙力がアップすると思われるので、これからの生活で言葉遣いに気を付けたい人はぜひこの本を読んでほしい。

新着図書の紹介

●『紛争地で「働く」私の生き方』　　永井 陽右/著　　小学館



2011 年の夏、アフリカのソマリアで未曾有の大飢饉が起き、26 万人もの人々が亡くなった。だが、世界は東日本大震災が起きた日本と東北にばかり注目し続けていた。大学１年生だった著者は、ルワンダで起きた大虐殺の解決法を探るべく夏休みを利用してルワンダに行き、帰りに立ち寄ったケニアで、ソマリアからの移民や難民を目の当たりにする。

当時「世界で一番危険な場所」と言われていたソマリア。諸外国からの支援も不足していた。「ソマリアを救うことが自分の使命だ」と心に強く思った彼は、大学の先生や国際系のＮＰＯ法人に話を聞きに行く。

「ソマリアだけはやめておけ」「英語もできず、専門性もなく、開発途上国での活動経験もないのに、何ができるのか」と言われた彼は、「高い語学力と専門性と活動経験をもっている大人たちがやらないから、だから俺がやるんだ！」と決意を強くする。

現在彼は、テロ組織から兵士の投降を引き出し、彼らを脱過激化させ、社会復帰に導くという仕事をしている。

第 1 章～3 章までは現地の状況の詳細となっているので、著者の人となりが分かる第 4 章から読むことをおすすめする。

●『特別な実績はなくても自己アピールができる　中村祐介の ゼロから始める志望理由書・自己推薦書対策』
中村 祐介/著　　ＫＡＤＯＫＡＷＡ

合格した書類の実例を基に、効果が認められた方法論を採用し、短い期間でゼロから、本格的な志望理由・自己推薦書を完成させることを目指した本。

高校での実績に関係なく、採点者に“刺さる”書類を作ることができる。

近日入荷予定！